

高橋国子

煎茶道家(黄檗売茶流)、心理カウンセラー、波動カウンセラー

あらゆる出来事が波動の世界に導き 出会いが新たな目標を与えてくれた

バセドウ病の経験から 見えない世界を知る

35歳くらいの時に、バセドウ病になつてしまいました。お茶の師匠が東京大学医学部附属病院でガンを研究された後、開業しておられた先生を紹介してくださいました。

思い返せば、その時の治療は波動療法のような感じでした。電極を2つ握り電流を流して、先生が長年研究されていたデータと総合的に分析する。ですが、先生はバセドウ病のバの字もおっしゃらない。

「あなたは胆嚢と肝臓が悪い。普通に病院に行ったら入院になりますよ」とのことでした。

私は若い頃、レコード会社の宣传部においてお酒を飲むのが仕事のよいうな毎日でした。不規則だった生活習慣が当たり前になっていたのです。バセドウ病の原因はそこからであつて、身体がバランスを取るために甲状腺ホルモンを過剰に分泌している。改善するためには強い薬を飲む必要がある。一度飲み始めると一生涯飲み続けることになる。

ですが薬を分解するのは肝臓で、却つて大きな負担がかかつてしまふ。一連の流れに納得出来たため、先生が勧めるオリジナルのサプリメントを購入し飲み始めました。すると良くなるより先にひどい好転反応が出てきたのです。

顔が1.5倍に腫れあがりゴツゴツとした大きな吹き出物が顔や首に出てきました。それを見た先生は驚きもみません。2年程飲み続けるとかかなり改善してきました。

ただ、あまりにも顔の状態がひどいのでクロロフィル洗顔を取り入れたところ、肌の状態が良くなってきました。このことは先生には話していなかったのですが、データを見ながら「葉緑素のようなもの摂ってますか?」と聞いてきました。バセドウ病はヨード(海藻類)の摂取を控える必要がある。「食べてはいませんが、肌が生きているのでクロロフィル洗顔はしています」と答えると「肌の状態が落ち着いたら止めてください」と言われました。

食べていなくても皮膚から吸収されていたのです。時間は掛かった

のですが、バセドウ病は改善してきました。

そのような経験を通じて、ホリスティックなアプローチを理解することが出来ました。それから西洋医学のお世話になる機会は少なくなりました。

先生からは多くを学ばせて頂きました。その先生をしても、どうしても治らない人がいるとのこと。す。「別のところと繋がらないと駄目なのだ」と。それは何ですか?と聞くと「前世や家系、先祖など霊的なところですよ」とおっしゃるので「でも私は医学者であつてそういった力は持ち合わせていない。そこにアプローチ出来ずにずっと悩んでいる」と。先生はラジオニクスのような機器で測定していたと思います。見えない世界からの影響もあるのだと教えていただいた、貴重な経験でした。

ニュートラルな意識で 相對する大切さ

私は、煎茶道(黄檗売茶流)をお家元から教えていただいています

が、日本文化には量子や波動の世界と相通じるものを感じています。

当流派において、神様にお茶を献上する「献茶式」というものを行います。重要な文化財である神社では炭を使って火をおこすことが出来ないの、「炭手前」という型に基づいた所作を行います。お役目を頂戴した際に、少しはいいところを見せたいなと思ひ臨んだのですが、いざ始まるとまるで自動運転のように手が動きまわります。記憶も虚ろで、果たして役目は果たせたのだろうか?と思っていると、先代及び当代のお家元から「中々良かった。その場の温度が変わった。炭がおこせていた。」等のお言葉を頂戴し、とても嬉しい出来事でした。

波動カウンセリングにおいても煎茶道同様、そこは「氣」の世界であり、意識をニュートラルにして相對することが大切だと感じます。

命をかけて 猫が伝えようとしたこと

私は猫が好きで飼っているのですが、もう一匹飼いたいなと思ひ縁



♪ご興味、ご相談の旨は下記まで♪
kunigon@lapis.plala.or.jp

があつて生後2ヶ月の子猫を引き取りました。個人で保護活動されている高齢の方から譲り受けたのですが、いわゆる健康チェックがされていない子猫でした。

ワクチンを一度だけ打とうと思いい動物病院に行き帰って来ると、あんなに元気だったのにご飯を全く食べなくなり寝たきりになりました。慌てて動物病院に連れていくと「ワクチンの副作用かもしれない」と言われ、1週間ほど通いましたが容体は変わりません。もしかすると深刻な病気かもしれないと思ひ、別の病院で診てもらったところ「猫伝染性腹膜炎(FIP)以後FIPで統一」の可能性がある」と言われました。私は激しく動揺し、猫の保護主さんに電話をしました。すると「では引き取ります」と

おっしゃいます。けれど、このまま返したら何もせず看取るのだからなと思ひました。何故なら、FIPは100%助からない病気と言われているからです。

話は前後しますが、私は子供の頃から動物と会話が出来ます(そう思っていました)。皆もそうなのだと思いますが、父親から「動物と話の出来る振りをするな。嘘つきだ。おかしい人だと思われろぞ」と叱られ、大変なショックを受けました。ある日、我が家で飼っていた2匹の子猫が幼稚園から戻ってくると家にいません。嫌な予感がして母親に尋ねると「お父さんが遠くに捨てに行った」と言うのです。母親から優しい人にもられていったと方便でもあれば良かったのに、正直に冬の寒い河原に捨てに行ったというのです。とても可哀想な事をしてしまったと、私の心は痛みました。幼い私は厳格な父には従うしかありません。けれども、私がこのままでは大切な友だちは守れないと、以降は動物と会話することを人前では封印しました。小学生になり、学校で映画「南極物語」を観た時は、涙と嗚咽が止まらなくなりました。それはあの子猫との別れの悲しさを思い出したからなのです。

今、目の前にいるこの子猫はFIPに罹っている。「どうしよう(涙)」、非常な恐怖におのきなから空を見上げたら、その日は満月でした。唐突に「あれ? 100%治らないと決めつけている私なのでは」と思ひました。

私が諦めたら、この小さな命は消えてしまう。懸命に調べてみると、昔と違い現在、海外では薬で治していたのです。それも近隣にある「ねこけん」という保護団体がFIPについても真剣に取り組んでいるのです。メールで相談すると、その日に連絡があり、緊急に診ていただき治療を開始しました。

薬は日本では未承認で、とても高額ですが、薬代だけで治療をしてくださいました。投薬は8日間、規則正しく決まった時間に与え続けなくてはなりません。すると日に日に良くなっていき、8日後にはかなり改善しました。ですが、投薬をやめると2日後に再発してしまい、43日間の治療を再開しました。結局、再発まで繰り返すことになり、獣医師も「初めてのケース」と不思議がりました。その時にふと「こんなに長引くのは、私自身の問題ではないか」と感じたのです。

私が乗り越えていない何かを猫が身を持って伝えようとしている

のではないかと。過去にあったバセドウ病の治療の時の先生の言葉を思い出しました。

「見えない何かの影響をしている」それで調べましたら、近所で吉野内さんという方が波動力ウンセリングというのをしている。

波動力ウンセリングを通じて分かったのは、幼少期のあの体験でした。父親に子猫を捨てられた絶望的な悲しみ、自分を許せない気持ちの影響していたのです。この悲しみ、恐怖を乗り越えなくては、それを猫が命懸けで伝えようとしている。猫と一緒に私も波動力を飲み始めて、ついに獣医師から「完治しました」と言ってもらえたのです。

FIPは寛解しかないのに完治したのです! まさに奇跡ではないでしょうか!!

私の師匠は「最も弱い人が守られるような社会でないと駄目だ」とおっしゃいます。動物や植物も同様です。苦しめているのはヒエラルキーの頂点にいる人間です。解決するのは人間の進化、魂の成熟しかありません。そのアプローチのひとつが波動であり、日本文化でもあるわけですね。今後は、これらのことを中心軸とし、生きとし生けるものが健やかであることに貢献する活動をしていこうと決心しています。